



# 大野一心

NO. 3 1

令和5年10月17日(火) 文責：校長 諸熊 修一

## 感動した！吹奏楽部演奏会

10月15日(日)に本校体育館で吹奏楽部の演奏会が行われました。当日は吹奏楽部の保護者を始め、卒業生や本校職員など100名以上の方が来校していました。

1部の演奏では、今年度の長崎県吹奏楽コンクール県北地区大会の金賞受賞曲やアンサンブルコンテストの金賞受賞曲などが披露されました。2部の「大野中ヒットメドレー」では、ポップな曲に合わせて、部員が衣装を着て踊ったり歌ったりして、大いに盛り上がりました。最後は吹奏楽部全員でアンジェラ・アキさんの「サクラ色」を合唱したのですが、この演奏会を最後に引退する3年生の中には感極まって涙を流している人もいました。

今年度は、大きな目標の一つだった長崎県吹奏楽コンクール県北地区大会において金賞を受賞することができました。そして、県北地区の代表として、長崎ブリックホールで演奏するという貴重な経験も得ました。でも、大会当日は金賞受賞を目指すことよりも「感謝する」ということを、皆が意識して演奏に臨んだというエピソードを筒井先生からお聞きして、とても感銘を受けました。

今回の演奏会をもって引退する3年生の皆さん、本当にお疲れさまでした。中村先生、筒井先生の指導の下、2年半の部活動の経験は、かけがえのない日々になったのではないのでしょうか。大人になって振り返った時に、きっと大切な思い出の一コマになっているはずです。(本校ホームページの「副校長のへや」もぜひご覧ください)



## 【校長のひとこと】

谷村新司さんがお亡くなりになりました。昭和、平成、令和と活躍されたミュージシャンです。子どもの頃、谷村さんが作った曲をよく口ずさんでいました。昭和の時代を懐かしく思い出します。

「降る雪や明治は遠くなりけり」という中村草田男が詠んだ有名な句があります。この句は、大正時代を経(へ)て、昭和初期に作られました。そう考えてみると、もし作者が生きていたら平成を経た令和5年の今を「昭和は遠くなりけり」と詠むのでしょうか。

私は昭和63年の昭和最後の年に教員に採用されました。その当時の学校の様子を思い出してみました。煙草は自由に吸えたので、職員会議はいつも煙がモクモクしていました。ちなみに当時は私も喫煙者でした。パソコンはもちろん持っていません。私が初めて作ったテスト問題は手書きでした。ゴミは焼却炉へ捨てに行き、そこで燃やします。土曜日は半ドン(生徒の皆さんは「半ドン」って分かりますか？午前中3時間の授業で下校のこと)で、午後から部活動をしていました。家庭訪問では、最後の時間をお願いされて、お父さんたちと一緒にお酒をいただくこともありました。冬になると煙突付きの大きな石油ストーブが職員室の真ん中に置かれ、煙突は換気のために窓の外に出されていました。時には、ストーブの上で餅を焼いたりイカを焼いたりして食べることもありました。今となっては考えられないことばかりです。

やはり「昭和は遠くなりけり」ですね・・・。

